

## 地域密着型サービス自己評価票

- 指定認知症対応型共同生活介護  
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成 20 年 2 月 20 日
事業所名	グループホームエバグリーン 「木」ユニット
事業所番号	2372001111
記入者名	職名 管理者 氏名 村井 純
連絡先電話番号	0532-62-4434

(様式1)

## 自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組 んでい きたい)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	○	<p>地域の社会資源として努める」は方針の一つで、地域で頑張る人達の憩いの場でもありたい。虐待など放っておけない緊急度の高い人は短期間等利用を優先する。また重度になっても繰り返し再入所できるように応援したい。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	<p>理念の掲示は玄関にだけではなく、各ユニット内の目につく所にも貼り出したい。メールや電話を活用していきたい。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	○	<p>昨今、メディア等でグループホームについて紹介されているが、当施設でも映画会・桜祭等の行事を通じて、多くの地域の方に少しずつ理解してもらえよう努力して行きたい。</p>
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえよう日常的なつきあいができるように努めている</p>	○	<p>朝、近所のお寺参拝を務め、挨拶をしている。近隣の人に積極的に話し掛けたり、草取りや掃除などの機会を増やして行きたい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	<p>現在、中学校のバザーに買い手として参加しているが、売り手として参加する事で「売る楽しみ」も提供してみたい。あいトピア（身体障害者などの福祉センター）で作品展は参加している。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組 んでい きたい)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	介護教室を地域包括支援センターと共催。老人クラブ等で認知症理解と対応の話をしている。ヘルパー養成所で介護の講義を受け持った。中学生・看護学生・ヘルパー2級実習生を受け入れている。	○	機会があればどんどん地域へ話しに出掛けたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価表をテキストにしている。全員が意見を出し合いながら、日常ケアを省みて、一層質の向上を目指すための意義を理解している。建設的に理解し、価値観を共有しながら、自己研鑽に繋ぎたい。	○	スタッフが共通の知念を目指して質の向上を図って行きたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で挙げた意見や課題等は全職員にカンファレンスで伝え、サービスの向上に繋がる様に話し合っている。	○	
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政からの連絡は、管理者を通じて職員に伝達され、会議などは交代で参加し、その内容はミーティングにて報告し情報を共有している。管理者はいつでも気軽に市職員に尋ね教えてもらっている。運営推進会議には、市職員代理で地域包括支援センターが出席され、市介護相談員は毎月訪問されている。	○	できるだけ連携を密にして行きたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護について、研修等を通じ学ぶ機会はあるが、全職員がこの制度に対する理解があるか疑問である。1名が権利擁護事業を利用、1名が成年後見人制度を利用されている。	○	介護職員が誰とも話し合わずに、権利擁護や成年後見人制度について勧めたりすることは無いが、皆が理解を深めて行きたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束ゼロ委員会等で虐待防止について学ぶ機会があり、各職員が虐待防止に意識を持って努めている。	○	デイサービス利用者や、相談者の中でも気がつけば地域包括支援センター等へ相談したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組 んでい きたい)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に本人・家族に対し説明をし、同意を得ている。その際、本人・家族からの不安や疑問を伺っている。	○ 契約解除夜受診などについて個々に具体的に話をしている。
13	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人からの意見を常に聞く様に取り組んでいる。又、些細なこともその内容を管理者に連絡・相談し、満足に繋がるように取り組んでいる。	○ 過去6年間には、ある一部の職員のことばがきついか怖いかかすぐやって欲しいとか数回耳にしたことがある。軽率なことば使いを改め、一人一人の資質を向上させて、深い信頼が得られるように努めなければいけないと思っている。
14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月広報で機関紙を発行し、家族へ報告している。又、月間評価を見てもらい署名・捺印を受け、本人の暮らし振り等を伝えている。ケアプランは一式コピーをし家族にお渡ししている。受診の前後や普段と異なった言動など逐一家族に連絡相談をしている。	○ 今後も怠らず、また記録にも留意して行きたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族交流会を設け、そこで挙げた意見は全職員に伝え、課題解決に取り組んでいる。交流会では食事を一緒に行い、和やかな雰囲気を作り意見を発表しやすい様にしている。	○
16	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	苦情受付を設置している。毎月の請求書送付案内に、疑問質問他何でも申し付けいただくよう記載している。あまり意見は無いが家族交流会や運営推進委員会に出席の家族から出された意見は全職員が承知をし、誤解であればさり気なく「1日の暮らし」を張り出したり、安心されるように努めている。	○ 参考にさせていただくべきものは早速取り入れている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	本人に必要な対応が出来る様、臨機応変に勤務の調整（受診ほか事情をよく知っている者が担当する。運転を得意とする職員を配置するなど）を行っている。夜勤者も馴染みの配置をしている。急に休む職員があっても代替が可能なゆとりがある。	○ 良い介護の人材を求めて行きたい。また資格取得の為の勉強を行って行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組 んでい きたい)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新入職員は6ヶ月程度の間隔で、ユニット内異動がある。ベテランでも異動余儀なくされる場合も最小限にして混乱を来さないようにしている。6年経過すると（中には1・2年の馴染みの場合もあるが）殆どどの職員が馴染みになり、受け入れていただける。	○	異動があっても十分な引継ぎが行われている。
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19 ○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修会や資格取得の機会は積極的に参加する様努めている。	○	研修・講習参加後には、報告書を提出すると共にカンファレンスを通じて報告し、情報の共有化に努めている。月1回の職員会議の場で研修報告をする場がある。
20 ○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等で他施設の職員と情報交換等をして交流を行っている。その他、他施設に見学へ行き、良い所を取り入れる様に努力している。市内の他施設から祭に招待され職員同行で行ったり来所されたりもしている。	○	これまで以上に交流を増やせる様、積極的に機会を設けたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	個人的には一部の職員同士で職場外での食事や喫茶等での付き合いがあり、コミュニケーションを図る事でストレスの解消をしているが、昼休みをとれないという問題もある。	○	全職員との朝夕の挨拶はしっかりと行う事を意識すると共に、今以上に幅広くコミュニケーション作りに努力する。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務表の作成について、職員の体調維持等を優先して休暇希望を考慮している。	○	健康的に朗らかに利用者に接する事が出来る様、指導している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組 んでい きたい)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	心身の状態、人柄等はもちろん、希望、悩み等を出来る限り把握する様努力し、それを日常のサービスに反映して、利用者との信頼関係の確立に繋げて行きたい。	○ 慣れに任せず、初心に戻って左記の様に努力したい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の来訪時、不安や希望等を聞いており、なるべく現場に反映出来る様努力している。	○ 家族との認識のズレを発生させない為、普段から家族とのコミュニケーションをはかり、家族の要望にどこまで添えられるか確認し合って行きたい。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	可能な事は即実行に努めているが、不可能な事もケアマネや主治医と連携を図りなるべく希望に添えるよう努力している。	○ 各種事情により不可能な支援についても、出来る限りのサポートをしていける様努力したい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	人それぞれ性格・趣味・経歴等により求めるサービスも異なる為、まず本人を知った上で環境作り等を進めている。	○ 本人の納得が得られない場合、家族等に理解・協力を求め、本人が安心してサービスを受けられる様支援したい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の個性を尊重し、個性・趣味・こだわり等を活かし職員も一緒に共感している。洗濯・菜園など職員と一緒にいる。	○ 左記を基本として、もっと喜怒哀楽を共有していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組 んでい きたい)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族との情報交換を密にして、本人の為に職員として、家族として出来ることを共に相談するよう努力している。	○	行事やイベントに出来るだけ家族に参加を促しその場を通じてより良い関係を作りたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の関係を大切にし、お互いの希望に沿って職員が間に入り、なるべく摩擦が起きない様配慮している。	○	本人や家族の絆がこれまで以上に深まる様、出来る限りお互いの意見を傾聴したい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買物、馴染みの理美容、化粧品、墓参、ゴルフや釣りなど個々の趣味の継続を応援している。少々遠方でも馴染みの土地へドライブしたりしている。元担当の民生委員や友人達にできるだけ来訪されるよう依頼している。デイサービスの友だちの所へ出かける応援をしている。	○	本人の変化を一緒に見守っていただけるよう支援を続けたい。
31	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員がさりげなく談話・散歩・リハビリ・入浴など両者に声かけし、お互い良い関係が続く様支援している。歌の好きな人、囲碁将棋、短歌の会、ドライブ、博物館・美術館、社寺参拝など趣味の仲間作りを応援している。	○	もっと広く趣味を把握して行きたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	地域密着型サービスとして、契約関係が終わっても交流を継続する様取り組んでいる。デイサービスに繋いだり、退所者の家族が訪問される場合もある。	○	契約関係が終了しても情報誌を送ったり、行事に招待している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組 んでい きたい)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりが何をして欲しいか把握し、満足や笑顔が得られるようする様努めている。	○ 本人・家族が決定されるよう支援している。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントで家族等からこれまでの生活歴等聞き把握に努めている。いつもと異なることがあれば以前の状態を教えていただくなど努めている。	○ 時間をかけても支援に活かせる様努力したい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	カンファレンスで気づいた事を話し合い、本人の出来る事・出来ない事の把握に努めている。	○ 日常的によく観察し、出来る事が続けられる様支援したい。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意見を配慮し、ケアプランを作成している。	○ 本人・家族が理解出来る様、分かりやすく具体的にプランを作成する。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的にケアプランの見直しを行っている。又、月に一度ケアプランに対しての評価をし、家族に目を通してもらっている。できる範囲の計画を心掛けている。	○ カンファレンスを行い、職員全員で見直しをしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組 んでい きたい)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で情報を共有する為、昼夜共に記録をしている。	○	個別ファイルを作成し、必ず引き継ぎを行い、それを基にケアプランを作成している。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	退所延長、共用型デイサービスの延長時間や家族の宿泊等受け入れている。医療連携を行っている。必要に応じ、ケアマネージャーや福祉用具の紹介、リハビリや栄養・調理の助言、トロミ食、周辺症状への望ましい対応など話している。	○	デイサービス・ショートステイ・共用型通所・お試し利用の受け入れをしている。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40 ○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	保育園・小中学校の行事（月1回の誕生日会、運動会に参加）や往来で良い関係が出来ている。又、相談員や民生委員、ボランティアの訪問もある。	○	保育園では月1回の誕生日会や、運動会、クリスマス会など声を掛けてもらって参加している為、今後のよい関係を続けていきたい。
41 ○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域包括支援センターと介護教室を共催。福祉用具サービス事業所等と連携しており、介護保険の更新や福祉用具購入等行っている。併設デイサービスでのサイクルマシンなどのリハビリやカラオケを共に楽しんだり、行事各種を一緒に楽しんでいる。併設老人保健施設の認知症サポート医師や夜間の医療職員の協力を得ている。	○	理容（1000円）・美容化粧ボランティアを受け入れている。
42 ○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	介護教室を行事と共催したり、福祉用具の事業者の紹介をもらう等している。介護保険証更新をもらっている。	○	隣接している為、日頃より交流がある。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組 んでい きたい)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望する医療機関に受診している。	○	かかりつけ医の他にも協力病院があり、緊急時等でも対応出来る様になっている。歯科医の訪問治療もある。
44	○認知症の専門医等の受診支援  専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	隣接している協力機関の老人保健施設の認知症サポート医師により助言診断を得ている。また強力病院内科でも助言を得ている。	○	病院と連携が取れていて、個々に主治医がある。特に在宅からの掛かり付け医を大切にしている。
45	○看護職との協働  利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置している。夜間については隣接する老人保健施設の看護職員の協力を受けている。	○	
46	○早期退院に向けた医療機関との協働  利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	介護サマリーで本人の状態、家族の意向を伝えている。(殆んどの場合、本人・家族の希望で早期に戻って来られる。)	○	
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族との話し合いを密に行い、できる限り要望に答えている。6年経ち高齢化・重度化して来た為申し合わせていることで、医師が入院治療が必要とした場合及びトロミ食でも誤飲性肺炎の恐れ大の場合は退所・入院としている。	○	
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援  重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医療関係者との連携を密にし、グループホームでの限界(医師の入院指示、嚥下困難で食事が摂れない)の場合は家族と話し合いターミナルまでの手伝いをしている。	○	入院先で亡くなられた人でも、主治医と連携を密にしながらトロミ食で介助した数週間はターミナルケアのお手伝いが出来たと思っている。今後は入院先での現状や入院先から戻る際など、もう少し早く詳しく情報提供をしてもらえよう病院との関係を作っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組 んでい きたい)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ケアマネを中心に、家族・職員・関係者と話し合いを行い、本人が一番安心する環境を提供出来る様努力している。(管理者は退所に向けて、フォーマル・インフォーマルの社会資源を駆使し、在宅生活の経費などマネジメントして情報を提供し、家族本人の決定材料として支援している。)	○	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>				
50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員が必要な研修を受けており、入所にあたり本人・家族に個人情報の取り扱いについての同意書にサインをもらっている。その上で、職員は本人に配慮したケアを行っている。	○	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人のことば・行動を傾聴する事で自己実現が出来る雰囲気作りを心掛けている。	○	職員の都合でなく、本人が望み決定できる支援を続けたい。常に個々を平等に。思いや希望を傾聴していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の要望を全て早期実現する事は難しいが、なるべく早期に実現できる様努力している。現在は全員がマイペースで時を楽しんでおられる。食事摂取時間もその人をペースで行っている。	○	その人らしくは施設の方針でもあり、グループホームの特徴でもあり、大切にしたい。
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	家族等の協力を得ながら、本人の好みや希望に応じた支援を行っている。(衣類の買い物・美容院等)第3金曜日は化粧ボランティアの来訪がある。毎月1000円床屋の来訪があるが、個々の希望に応じ地域の馴染みの理美容院へ同行もして支援している。爪切り、顔そりも行っている。	○	田舎で地味な地域性もあるが、その人らしく精一杯おしゃれであるよう支援して行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組 んでい きたい)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	肉が食べられない人には魚や卵など他の主タンパクの配慮がある。好みに合わせて、ゆでたり炒めたりする。中庭などで摘んだ野菜を飾りつけたり一緒に調理し、片付け模している。1年に2階程度回転寿司やうどん店など行くが、個々の気が向けば行きたい所へ同行し楽しんでいる。	○	もっと個別に楽しんでいただきたい。フロアで食べるだけでなく、メニューに合わせ弁当箱に詰めて、外で食事を楽しめる様にしていきたい。
55	○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	健康に留意（その日の体調を確認）しながら、本人の好みに合わせて支援している。（煙草・おやつ等）毎晩ブランデーを少々楽しめる人もある。	○	本人の希望時にタバコ、コーヒー、ブランデーを楽しまれている。
56	○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	和式・洋式トイレを設置し、個々の生活習慣に対応している。一人ひとりの排泄パターンを把握し、必要あれば声かけ・誘導行う。トイレは常にピカピカである。	○	排泄チャートを活用し、オムツを減らしたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの入浴のタイミング等を把握し、気持ちよく入浴出来る様工夫している。ユニットバス以外にも、タイミングの良い時にデイサービスの大浴場で仲の良い人同士で入浴されている人もある。車椅子の方はデイサービスにある特浴を利用されることもある。	○	常に心掛けている。
58	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の意思で、就寝時間は自由である。昼夜逆転の人にはなるべくレクへの参加・散歩・体操等で日中の活動性を高め、生活リズムを保つよう支援している。	○	良眠か否かは夜勤日誌にも記録、もれなく伝達されている。昼間、ベッドで休まれた場合には様子を見ながら声かけし、出来るだけ活動参加を試みる。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	書道が得意な方には行事の看板を書いてもらったり、家事が得意な方には料理など、本人の力に合わせた活動へ促しをしている。誕生日の人には誕生日会を行っている。花の植え替え、四季折々の野菜の収穫も楽しんでいる。毎日ラジオ体操、リハビリ体操を行っている。	○	日々大切なことで全職員が念頭に置いている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組 んでい きたい)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望者には、現金管理規定に基づいて管理者が預かっている。財布は個人で管理している方もおり、売店等で自ら買い物をしている。外出に同行した際も本人の手でお金を払っていただいている。大金は権利擁護事業、又は成年後見人制度を利用している。	○	財布は個人で管理している方もいるが、保管場所を忘れることもあるので常に行動を把握して支援していきたい。
61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	受診や散歩はほぼ毎日、社寺参拝・買い物等誘ったり、本人の希望に添って行ったりしている。花の水遣り、参道や近所の道の草取りも声掛けで出かけている。	○	広い世界は皆の物の考えで、できるだけ外へ出かけるよう支援している。天気の良い日には一人で買い物や病院へ自転車で行かれる方もある。
62	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	頻りに花見やドライブ等出かける機会を設けている。又、本人の希望によりレストラン・すし屋・美術館等へも行っている。渥美半島、田原市サンテパーク、豊川稲荷、豊川魚魚ランド、ラグーナ蒲郡、浜松へ海釣り、三ヶ日温泉一泊旅行、湯谷温泉一泊旅行等々へ出掛けている。生まれ故郷を見に行くこともある。また利用者の誕生日に合わ	○	続けて支援したい。
63	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話はわかり易い場所に設置し、自由に使用してもらっている。携帯電話を持っている方もおり、手紙・年賀状(宛名は職員が書いている)など本人に呼び掛けて支援している。	○	氏名、住所などは忘れないように、選挙に参加できるように、学習療法を取り入れている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族等が面会に来た際、自室でゆったり過せるようお茶を出したり、声かけしている。孫や幼子と共に喜び、中には犬を見せるため来所の方もいる。	○	常時、美しく、癒される公園などに人が訪れるように、親戚でなくても地域の人たちが行き交って頂きたいと思い、できるだけオープンにしている。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に会議を行い、ヒヤリハットをもとに話し合い、全職員が把握出来る様カンファレンスでも伝達している。	○	ヒヤリハットで研鑽している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組 んでい きたい)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	家庭で外出時・夜間に戸締りをするように、玄関の施錠は本人と一緒にしている。居室は昼夜鍵は掛けておらず、本人が希望する場合には自身で施錠している。	○	外へ行きたい時は殆んどいつでもお供する方針にある。
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員が声を掛け合いながら利用者の所在を把握する様努めている。夜間は時間ごとに巡視を行っている。夜間巡視以外でも安全確認を行っている。	○	法人の方針は「安心・安全」である。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険が伴う物品（包丁・ハサミ・ライター等）については、管理し、使用する際は職員が見守りし、針の本数も確認して、安全に配慮している。	○	常に横に居て支援している。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	誤薬を防ぐ為、職員が服薬管理を行っている。ヒヤリハットを作成し、会議でも話し合い、事故防止策を検討している。（安全管理部会、リスクマネジメント部会、拘束ゼロ委員会がある。）	○	何段階も前からロスク回避の訓練をしている。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	看護職員が常駐しており、救急マニュアル等で連携をとっている。又、AEDの訓練は全職員が受けている。救急マニュアルを作成しいつも見える所に貼ってある。緊急時連絡先がよく分かるようにしてある。職員の緊急連絡網が作成され、年に2回連絡訓練している。	○	
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署と連携しての避難訓練・地域の防災訓練を定期的に行っている。その他、緊急連絡網を作成して緊急時にも全職員に情報が回る様にしている。	○	毎年地域住民と共に避難訓練を続けて行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組 んでい きたい)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	毎月のケアプランについての月間評価の際、家族に対し本人の状態を説明すると同時にリスクについても話し合っている。中には転倒や突然の異変時も承知している旨の主訴を書いてくださる家族もある。また開放的で自由な環境を保持している。	○	ケアプラン作成時にリスクについても家族と話し合い、回避に努めている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日朝食後にバイタルチェックを実施している。体調不良者がいれば、看護職員と連携して速やかに対応が取れる様にしている。	○	正常・異常について把握でき、いち早く異常に気がつくようにしたい。
74	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員で服薬の記録・管理を行っている。症状が変化した時は看護職員と相談し、医師の診察を受けている。受診時に薬の効用書きをもらい、目を通しファイルし、1回づつセットする際も効用等を確認している。	○	薬の名前や効用についてこれからもっと勉強して行きたい。
75	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェックを行っている。便秘症の人には散歩や食物繊維を取るようにして、それでも数日出ない場合は医師の指示を受け漢方や下剤を服用している。	○	全員の排泄パターンを全職員が把握しているよう努める。
76	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後に口腔洗浄の声掛け・誘導に努めている。口腔ケアの講座に参加している。歯科衛生士（併設施設職員）や看護師の指導も受けている。在宅歯科診療の先生の助言を受ける時もある。	○	全員が常に清潔の状態にして、おいしく食べられ、肺炎等病気にもならないように続けたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は米飯で微調整している。水分については、毎食後と10時、15時のほか入浴後に勧められている。また常時卓上にはお茶がいつでも自由に飲めるようにポットがテーブルに置いてある。	○	職員と一緒に捕食（パン、プリン、アミノバイタルなど）を購入される人もある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組 んでい きたい)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	隣接する老人保健施設と協働し、感染対策委員会を定期的実施しており、情報の共有を図っている。又、病院の実施する勉強会にも参加し、医師等から情報を得ている。毎年のインフルエンザ予防接種は全利用者及び全職員が受けている。タオルペーパーを設置している。毎日床をハイター消毒している。	○	嘔吐が見られた場合は、念のため壁など居室内をハイター消毒している。手洗い予防。
79	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具は漂白剤で殺菌し安全な場所に保管。食材は食中毒の危険があるような物は全て加熱している。手拭きは使い捨てペーパーを使用している。2週間冷凍保存を実施している。食器については乾燥機を使用し熱処理行っている。	○	包丁の切れの悪いものを定期的に研ぐようにしたい。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	利用者と一緒に花を植えたり、利用者の描いた絵などを飾ったりと、親しみある明るい雰囲気になる様心掛けている。	○	一緒に花を楽しんでいるが、ガーディニングのボランティアを探したい。
81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には四季折々にふさわしい飾りや絵等を利用者と共に製作している。共有部分も居室も掃除を徹底するようにしている。掃除機を使用し自身にて済ませる方や、職員を行う方もいる。音については難聴の利用者がいたり個人差がある為、本人達で話し合っ折り返いをつける様に促している。自室にテレビを設置している人が4人ある。	○	できるところは利用者の方々がされることを基本としているが、掃除等はしたくない人が殆んどで、今後の課題である。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになりたい利用者は居室に入って過ごしている。気の合う利用者同士はソファで過ごしたり、椅子を持ち寄って過ごしている。散歩や保育園の招待にも気の合う人どうしが多い。居室換えには留意している。できるだけ自分の持ち物を持って来ていただいている。	○	自分で部屋らしくしたい希望者は同行して整える。利用者と一緒に花、写真、作品を飾る。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が安心出来る様、基本的にタンスから茶碗まで本人が使い慣れた物を持参してもらっている。週に一度はシーツ交換を行い、居室内のトイレの掃除は日々保清に努めている。中には写真や花を飾ったりされている。	<input type="radio"/>	自分はどうしたいのかよく把握してもっと支援したい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	加湿器・濡れタオル・花瓶等を置き乾燥を防いだり、エアコンのこまめな調整で室温を管理している。その他、各居室には空気清浄機がついている。大変こまめに管理できている。気になる匂いには窓を開けたり、消臭剤を使用している。	<input type="radio"/>	エアコンのフィルター掃除を徹底。加湿器を設置し風邪を引かないよう留意する。
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア、浴室、トイレ等手すりがついており、利用者それぞれが活用している。又、廊下等の通路には利用者が躓きそうな物は置かないようにしている。	<input type="radio"/>	自立支援は大前提として整理やケアに努めている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	難聴の人にはゆっくり大きめの声で話したり、場合によっては筆談等本人のペースに合わせて対応している。中には在宅復帰を目指している人があり、職員と一緒にこまめに動いておられる。	<input type="radio"/>	自立を阻害しないように気長に待つことや、誉めことばや喜びを分かち合っ、ADLを高めたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花・野菜の肥料、水やりを行い成長や収穫を共に喜び楽しんでいる。収穫した野菜はおやつや食事に使用している。鶏の卵はお好み焼きに入れたりして楽しんでいる。	<input type="radio"/>	一杯喜びを見つけて活発な暮らしにしたい。施設の外周り、中庭等での掃除は積極的に行っている。

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**  
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自己実現（どのような状態でも自分が望むように生きる）の援助を職員の使命として、職員は横に居て支援する。